

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協ニュース

2019.12月
通巻 第549号

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012



技能五輪全国大会 造園競技参加選手全員で記念撮影

技能五輪全国大会開催

日造協会員青木鴻太氏が敢闘賞受賞

第57回技能五輪全国大会が11月15日から18日まで愛知県で42の職種に渡り開催された。

本大会は、23歳以下の技術者を対象に、造園職種は16・17日、小牧市総合運動場にて、北海道から沖縄までの24都道府県より34名が出場した。晴れに恵まれたものの、朝昼の寒暖差が激しい



課題に取り組む選手



金賞を受賞した前川氏の作品

天候の中、選手たちは日頃の技を競い合った。

造園職種の競技は3.5×2.5mの区画に、施工図に示す庭園を支給された材料を使い見栄えよく作庭するもので、競技時間は10時間を標準とし、その後30分で作業打ち切りとなる。

課題は、野面積みによる石積みや枯れ池、敷石や小舗石舗装、乱張り舗装、垣根の製作、高木及び中低木・下草花の植付け、芝張りなどで、全員が10時間30分以内に競技を終了させることができ、34の作品が出来上がった。

この結果、(株)近江庭園(滋賀)前川航平氏が金賞、日造協会員では岩間造園(愛知)の青木鴻太氏が敢闘賞を受賞した。

大会の実施については、技能者育成のため、(一社)日本造園組合連合会と協力し、日造協・技能五輪等部会や愛知県支部会員が運営・実施に協力した。

競技に参加した皆様には、今回の経験を糧にさらに技術に磨きをかけ、造園業界で活躍していかれることを期待したい。

技術委員会 技能五輪等部会 坂元博明



造園競技の会場

法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう！

本号の主な内容

- 2面 【学会の目・眼・芽】 マネジメントから地域経営へ
(公社)日本造園学会理事、兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授 赤澤 宏樹
【活動報告】女性活躍推進部会の1年一部会活動は協会内から外へ広がる－女性活躍推進部会部長 酒井 一江
- 3面 【活動報告】2019年度 地域リーダーズ勉強会報告
北海道総支部 地域リーダーズ 阿部 哲也
- 4面 【ふるさと自慢】山形県支部 土田 一彦(株)土田造園
出羽三山を眺め、食が豊富なユネスコ食文化創造都市「鶴岡」
【緑滴】 愛知県支部 中村 麻莉子(岩間造園株)
珈琲のある暮らし

樹林

(一社)日本造園建設業協会 監事
内山緑地建設株 代表取締役社長 内山 剛敏



「公園から友好と平和の発信」 ～ピースランタン、今後の展開～

2年前の「樹林」に第33回全国都市緑化よこはまフェアと雪見灯籠(ピースランタン)の里帰りについて、寄稿させていただきました。

戦後10年も経たない頃、当時の横浜市長平沼亮三氏がアメリカのポートランドに「友好と平和の灯を点てる」として雪見灯籠を寄贈しました。月日が流れ、2年前のよこはまフェアグランドオーブンに63年振りに里帰りしたというストーリーで、横浜公園の日本庭園「彼我庭園」に設置され公開されました。

灯籠設置の背景について、大きな評判を呼んだことは記憶に新しいところです。

◆
今年の9月に久しぶりにポートランド日本庭園でガーデンキュレーターを務める内山貞文氏から連絡が入りました。その内容は以下の通りです。

「来年は日本中がオリンピック・パラリンピックで騒ぐ中、原爆投下、そして終戦75周年を迎える。ポートランド日本庭園はその2020年を「Year of Peace・平和の年」と位置づけて日本で、そしてヨーロッパでイベント・活動を開催します。その一つとして、被爆地:広島・長崎の平和公園に、ピースランタンのレプリカを贈呈することになっております。灯籠の設置は来年4月下旬から5月上旬ごろ予定しています。」とのことでした。

広島平和記念公園と長崎平和公園は、過去弊社で一部施工に携わらせていただいたこともあり不思議なご縁を感じました。

さて、前回の寄稿以来ずっとこのピースランタンを寄贈した平沼氏のことが気になっており、どういう人物なのか調べてみました。

明治12年(1879)、現在の横浜市西区平沼町で生まれ、明治31年に慶應義塾大学を卒業後、家業の製塩業に携わる。明治41年には29歳の若さで神奈川県議会議員、大正13年に衆議院議員となり政治家として活躍する。スポーツ界においては、明治44年大日本体育協会副会長をはじめ、多くの競技団体の会長を務め、日本陸上競技連盟の初代理事長でもあった。

戦後、昭和26年から昭和34年の間横浜市長を務めた。在職中の昭和29年に、戦後初めての「初荷」を記念して、横浜市からポートランドへ「友好と平和のシンボル」として雪見灯籠を寄贈する。

なぜ彼が初荷として雪見灯籠を選択したかは定かではありませんが、この灯籠は横浜とポートランドとの新しい友好と平和を再構築するきっかけになったことは事実です。

来年はこのピースランタンのレプリカが広島と長崎に設置されることになります。

来年の全国都市緑化フェアが広島で開催されることもあり、日本中からまた海外から多くの観光客が訪れ、友好と平和の象徴であるピースランタンの背景について、大きな評判を呼ぶことを期待します。

公園・緑地に関する予算等を要望

政策懇談会で田丸副会長から4つの事項を要望

- 日造協は、令和2年度予算・税制等に関する要望について、11月7日、自由民主党予算・税制等に関する政策懇談会において行った。
- 当日は、日造協の田丸敬三副会長が出席。会議では、田丸副会長から令和2年度公園・緑地に関する予算等の要望を下記の通り行いました。
- 記
一、都市公園等関係予算の確保・拡大
- 二、持続可能で魅力あるまちづくりに資する公園緑地によるグリーンインフラの整備促進やPark-PFI等を活用した官民連携による都市公園の整備促進
- 三、都市公園の安全・安心対策、長寿命化対策の支援の推進
- 四、東日本大震災復興事業予算及び熊本地震復興関係予算の確保

2020新年造園人の集い

2020年1月6日(月)17:50より

品川プリンスホテル アネックスタワー5階 「プリンスホール」
(東京都港区高輪4-10-30 ☎ 03-3440-1111)

皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加ください
(当日受付可能です。直接会場にお越しください)

女性活躍推進部会の1年 一部会活動は協会内から外へ広がる

活動報告

平成から令和へ

日造協ニュース 2018年10月号への部会報告からあつと言ふ間に1年が経過した。部会開設から5年経過の平成31年で一区切り、令和元年が新たなスタートの年となった。そこで、部会の活動に大きな変化のあったこの一年を振り返ってみたい。

1年間のあゆみ

—広がりをみせる部会の活動—

部会で作成している「女子力アップで二人三脚ワーキング」は、追記をしながら4版へ、「造園建設業の仕事入門」は部会員の積極的な取材活動により、男前たちが登場する2版によって、女性だけの冊子ではなくなった。今、この2冊は部会が活動を広げるためのツールとなっている。他の委員会、部会、総支部、支部活動にも是非使っていただきたい。

部会開設当初より、女性の活躍を考えるのは、女性だけでなく、次世代を担う若い男性も一緒にと思っていたが、この1年で地域リーダーズとの協働が実現しており、積極的にリーダーズのメンバーが動き、しかけ、出前講座の実践を果たしている例もある。これは仕事や暮らしの課題を男女で考えるうえで大きな前進である。地域リーダーズに感謝！

国土交通省が5年をかけた「もっと女性が活躍できる建設業行動計画(H26)」では建設産業女性活躍ネットワークが構築された。我が部会も参入し、部会員が参加している。26年の計画は、建設業界団体の代表者が中心となって計画策定されたようだが、新計画策定は建設産業女性活躍ネットワークの幹事長(土木)、副幹事長(建築と造園)が参加して議論を行っている。大いに女性の目線が活かされた計画となるであろう。乞う期待。また、東京都は、昨年の懇談会から一步



お揃いのかかりゆしで造園の仕事を説明する
沖縄地域リーダーズ 10/4



聞いている生徒たち 10/4

進んで、本年はテーマ設定(①就業の継続、②職場環境の整備)による2回のワークショップを実施することになり、これにも部会員が参加している。そして、(公社)日本造園学会では新たに設置された「社会連携委員会」に、部会員からは2人が委員として参加している。さらには、業界の他団体の女性チーム作りについて、開設に関する相談係の役割も担うようになった。

部会の活躍は建設業関連の団体が注目するところであり、問い合わせがあれば本部より日造協の案内と2冊の冊子等を送付した後、取材を受ける機会が増えている。部会の存在のみならず造園建設業への理解を促す機会にもなっていることだろう。

このように、最初は協会内の女性だけで始めた活動は、地域リーダーズ、業界団体、東京都、国土交通省、日本造園学会へと活動が広がることになった。この活動が「造園業界における女性活躍への貢献」ということで私の母校である東京農業大学から造園大賞をいただいた。このことは、造園を教科を持つ大学が学術のみならず社会貢献活動を評価したことには意味があり、喜ばしく感じられた。この受賞は部会員が大いに奮起するきっかけにもなった。

出前講座の実績

—日常の思考を吐き出す—

現在、注力して実施している出前講座は2年目となり、参加者主体のセッションを重視し、参加の体感を大事に考えて実施している。参加者は男女、キャリアを問わず、経験年数でグルーピングし、実施している。同年代は、先輩は、後輩は、各社の代表者はどのような考え方を持っているか?仕事や諸々の事柄について先輩たちへの質問もあれば、ルーキーたちへ期待する発言も聞ける。参加者から発する話題によってセッションは自由に進む。これについては、設問を用意していただければ、前もって考えてくるのに、突然ふられて不愉快!というアンケートの回答もあった。が、出前講座は各自が



東京都支部の講座は多くの女性が参加 9/6

日常の問題意識を確認する場である。前もって用意した当たり障りないありがちな答えは出前講座の期待するものではない。若手も社長も平等に、参加者全員が緊張を継続し、全員が覚醒した時間は、あつと言ふ間に過ぎるのである。昨年の北海道を皮切りに年内の実績までを表に示した。

行政も参加の出前講座

—横浜市造協・横浜市・日造協の協働—

11月末には(一社)横浜市造園協会の若手による企画で、2回目の出前講座を実施した。前回同様、今回も市役所から若手10名が参加した。1班約8名の5班の構成で、参加者は概ねキャリア10年前後の人々が40名集結。テーマは「指導力を考える」である。小題は、①こんな若手は評価できる。(上司の立場でどこに評価視点があるか)②これまでの達成と悩み。(経験から伝えられることや一緒に考えられることはなにか)③こんな上司は願い下げ。(自分の将来像を考える)とした。約1時間のグループディスカッションとプレゼンテーションを行い、彼らの上司たちに感想を聞いた。コミュニケーション力が必要という意見があったが、ディスカッションは笑顔と活気にあふれ、初顔合わせでも十分なコミュニケーションができた。この雰囲気で官民の垣根なく仕事ができるといいなあと感じた。これを継続すれば、計画決定した2027年の花博もうまくいくのではと期待感いっぱいである。

出前講座による気づき

—農業高校への出前講座にも着手—

本年は農業系の高等学校の出前講座も実施している。高等学校は、学年別に応じたきめ細かい対応が必要で、さらに父兄も一緒に参加してもらえば仕事の理解には良いように感じる。また、雇用に関する先生の意見や要望も聞けることは、扱い手確保の足掛かりとなる。先生も企業を知ることが生徒の就業に必要だと聞き、ここでも学校と企業のコミュニケーションの必要性を感じた。また、横浜



女子生徒もいる熊谷農業高校 9/27

出前講座の実績		
年月日	開催	会場
2018		
05.31	北海道総支部	札幌
08.03	四国総支部	高知
12.14	沖縄総支部	那覇
2019		
01.11	千葉大学	千葉大学
01.21	近畿総支部	大阪
01.31	横浜市造協・神奈川県支部	横浜
02.12	地域リーダーズ(全国)	京都
07.16	地域リーダーズ(関東)	群馬
09.06	東京都支部	東京
09.26	千葉県支部	千葉
09.27	埼玉県立熊谷農業高校	埼玉県立熊谷農業高校
10.04	沖縄総支部	沖縄県立中部農林高校
10.08	日本造園学会北海道支部	北大(学生・一般)
11.20	横浜市造協・神奈川県支部	横浜
12.21	東京都立農芸高校(予定)	都立農芸高校

市の例にある
よう行政の若
手も入れると
相互理解がで
き、プロジェ
クトの折にも
前向きで実質
的な話しがで
きることにな
ろう。男女年
齢関係なく参
加は言うまで
もない。



千葉大のチラシ

「造園の仕事とくらし」は造園に学ぶ

取材を受けると何事も一つの方向に断じたいのだなあと感じる。記事をまとめるのは楽だろうが、それほど単純なことは何一つない。それで私の結論は、「何事も時間をかけてゆっくりと」ということになる。自然是雌雄があつて子孫を作り、じっくりと時間をかけて育つ。手のかけ方は千差万別であるが、愛情と注視、これがコミュニケーションとなって成長を遂げると考えれば、何事も造園の根幹に学ぶということであろう。部会活動は6年目で部会員はそれぞれが個性に磨きをかけて活躍している。造園人として、社会人としてどんな大樹に成長を遂げるか楽しみである。



横浜でのワークショップ。議論伯仲！ 11/20

学会の目・眼・芽 第103回

マネジメントから地域経営へ

(公社)日本造園学会理事、兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授 赤澤 宏樹

阪神・淡路大震災からの復旧・復興を大きなきっかけとして、造園分野でも市民参加による緑のまちづくりや公園のマネジメントが普及した。

造園のハードはエイジングを前提として計画・設計され、施工後のマネジメントを通じた維持、管理、運営、育成によって良好なエイジングが現実のものとなる。

加えて、ソフト面では利用促進の継続によって、愛着や場の使いこなし、ルールやマナーからコミュニティまでが醸成される。

これらのマネジメントの結果が特別な人材による特殊事例に収まらないよ

う、造園学会では多くのマネジメント分野の学術論文が発表され、マネジメント技術を技術報告集に掲載するなど、様々な成果を検証し共有してきた。

ランドスケープマネジメント研究推進委員会も設置され、全国大会でのミニフォーラム開催や書籍出版を通じて、さらなるマネジメント技術の啓発に努めている。

◆

この間、特定非営利活動促進法によつて非営利組織が造園空間のマネジメントに関わる基礎が整えられ、指定管理者制度やPark-PFIによって民間企業のノウハウや活力による新たな公園・緑地の

マネジメントも実践してきた。

マネジメント分野の学術、技術に関する学会活動に参加して感じることは、個別の造園空間のマネジメントから、周辺エリアへ効果が拡がり、市街地性能やまちの価値向上に至る取り組みがこの10年で増えたことである。

人の流れを変え、新たな経済活動を誘発する、つまり地域経営への視座が拡大してきている。

必然的に、都市計画分野から公園をはじめとする造園空間に寄せられる期待も大きくなっている。

我われ造園分野の専門家は、改めて地域の中での造園空間のあり方を考え、計画・設計から施工、マネジメントに至る新たな技術開発と実践にチャレンジし、地域経営まで踏み込むことが求

められている。

国内で始まりつつある公園(再)配置計画の策定や、住区基幹公園群の一括指定管理は、その兆しではないだろうか。

◆

来年5月22日(金)~24日(日)に、兵庫県にて造園学会全国大会が開催される。

大会テーマとして「地域経営とランドスケープ」を掲げ、人口減少社会を迎えた地域経営に造園分野がどのように寄与するのか、見学会やフォーラムでの議論を通じて考える。

ポスターや論文の発表にも、官・学・民・市民によるマネジメントや地域経営に関する内容が期待されるので、是非参加をお願いしたい。

2019年度 地域リーダーズ勉強会報告

活動報告

北海道総支部 地域リーダーズ 阿部 哲也



地域リーダーズ発足10周年を迎えるにあたり、2019年度地域リーダーズ勉強会を第1回の開催地である北海道総支部（札幌市）にて、10月7日、8日の2日間で開催しました。今回は全国から157名の方にご参加いただき、1日目の講演会では2020年白老にオープンする国立民族共生象徴空間の紹介、ガーデン街道北海道の取り組み、また今年度で10周年を迎える地域リーダーズの現在までの活動について振り返りました。講演会後は、全国からの参加者及び（一社）北海道造園緑化建設業協会の皆様と交流会を行いました。2日目は、あいにくの天候となりましたが、モエレ沼公園・北海道大学植物園を見学し、昼食にはサッポロビール園でジンギスカンを堪能。札幌駅で解散し、2日間の勉強会を無事終えることができました。

開会にあたり、松戸総リーダー、正本事業委員長よりご挨拶いただきました。

第1部 講演①

北海道開発局事業振興部都市住宅課長の篠宮章浩氏より「国立民族共生公園白老について」ご講演いただきました。

この民族共生象徴空間は、国立アイヌ民族博物館と国立民族共生公園で構成され、愛称の「ウポポイ」とは、アイヌ語で「おおぜいでうたうこと」意味しています。

博物館は、北海道初の国立博物館で、アイヌの歴史・文化に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与することを目的に、「ことば・歴史・世界・しごと・くらし・交流」の6つのテーマに沿った展示がなされます。

公園では、舞踏や伝統楽器による公演や木彫・刺繡の製作体験、ムックリ等の演奏体験を通じて、アイヌ文化を体感できるフィールドミュージアムとなっております。

講師からは、施設の紹介以外にも、アイヌ政策に関する主な経緯や、古式舞踏・言語等のアイヌ文化について説明がありました。「ウポポイ」は2020年4月24日にオープンです。

第1部 講演②

（株）真鍋庭園緑化の真鍋憲太郎氏より「北海道ガーデン街道の取組等について」ご講演いただきました。

北海道ガーデン街道とは、2007年に

婦人雑誌の「ガーデン巡りの旅」という特集がきっかけで、十勝千年の森の林克彦氏が7つのガーデンに参集を呼びかけたのが始まりで、TVドラマの放映、ガーデンアイランド北海道（GIH）のシンポジウム開催、アドバイザーの導入を経て、現在は8つのガーデンが集中している、大雪～富良野～十勝を結ぶ全長約250kmの街道です。

講師からは、自身の経営する「真鍋庭園」をメインに8つのガーデンの紹介や、各ガーデンの若者が参画基準・広報手段・運営方法・目標・インシャルコストと継続性などについて自分達の納得のいくルールを明確にして取り組まれていることをお話しいただきました。

第2部 地域リーダーズ10周年記念講演
「地域リーダーズ発足10周年を迎えて」と題し、古積サブリーダーのコーディネートで歴代総リーダーの四宮繁氏、森川昌紀氏、當内匡氏、現総リーダーの松戸克浩氏にそれぞれの年代での課題や活動、新しい取り組みについてご報告いただきました。

四宮氏からは、地域リーダーズの立上げから設立に係わる経緯やルールづくりについて、森川氏からは、毎年の勉強会開催の定着と新たな取り組みとなる会員拡大事業への協力等について、當内氏からは、スカイプ会議の本格導入、造園環境緑化事業団体若手交流会への参加等について、松戸氏からは、女性活躍推進部会との連携、今後の活動展望についてお話しいただきました。



交流会のようす

10年分の活動報告ということで、皆様に熱く語っていただき、地域リーダーズ活動の10年の重みを感じることができました。

閉会にあたり、嘉屋北海道総支部長よりご挨拶いただきました。

第3部 交流会

古積サブリーダーの開会挨拶、四宮北海道支部長の乾杯で交流会が始まり、中盤には各総支部リーダー、昨年度よりご参加いただいている女性活躍推進部会のメンバーが壇上に上がり、支部メンバーの紹介やPRを行いました。

また、福島広島県支部長より2020年3月開催の「ひろしま はなのわ2020」の案内がありました。

最後に、岩間幹事から来年度の中部総支部での勉強会開催についての案内と締めの挨拶で閉会となりました。

第4部 見学会

2日目は、見学先とバスの定員を考慮し、2班に分かれて、モエレ沼公園と北海道大学植物園を見学しました。

モエレ沼公園

モエレ沼公園は、彫刻家イサム・ノグチが基本設計を行った札幌市を代表する総合公園で、広大な敷地には公園のシンボルであるガラスのピラミッド、標高62mのモエレ山、噴上高25mの海の噴水等の施設が整然と配置されており、自然とアートが融合した美しい景観を樂

しむことのできる公園です。

見学会ではガラスのピラミッド内で公園の造成から完成までの経緯や設計者のイサム・ノグチについて、モエレ沼管理事務所の松本所長よりご説明いただきました。説明後は公園内を自由に散策しました。

北海道大学植物園

北海道大学植物園は、札幌駅から徒歩で10分の市街地の中心部にあり、緩やかな起伏に富む地形と豊かな水、ハルニレの巨木等、札幌の原始の姿を今に伝える貴重な場所である一方で、大学の施設として教育と研究、植物の系統保存の役割を果たしています。

見学にあたっては、樹木医の阿部先生、豊田先生に、植物園の歴史や園内の樹木・建造物の説明を受けながら散策しました。博物館内では絶滅した動物などの剥製、北方民族博物館ではアイヌ民族が実際に生活で使用した道具等をみることができました。

昼食 サッポロビール園

見学の最後は、サッポロビール園にてジンギスカンと生ビールを堪能しました。多少の時間差ありましたが、参加者全員での昼食となりました。

最後に

今回は北海道開催ということで、北海道総支部並びに、（一社）北海道造園緑化建設業協会の皆様には、開催準備から当日の手伝い等、多大なるご理解とご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。



サッポロビール園での昼食



講演会のようす



モエレ沼公園での見学



北海道大学植物園での見学

